

2009

広報

おばま 4

《表紙》

毎年3月2日に営まれる「お水送り」神事。神宮寺では修三会（しゆにえ）の最後に、赤装束の僧が大たいまつを振り回す達陀（だつたん）が行われます。

大護摩法要、たいまつ行列、送水神事と続き、炎の祭典はクライマックスを迎えます。
(18時47分撮影)

【特集】 平成 21 年度当初予算

平成21年度 当初予算

平成21年度の当初予算が決まりました。一般会計は138億3,433万円で前年度比2.5%の増と昨年の市長選挙を控えたいわゆる骨格予算と同規模にスリム化しました。人件費や投資的経費を抑え、マニフェストに掲げているソフト事業を中心に新規事業30事業を盛り込みました。

特別会計の合計は、99億8,304万円で前年度比1.3%の増となりました。

企業会計の合計は、9億2,129万円で前年度比6.4%の減となり、すべての予算総額は247億3,866万円で前年度比1.6%の増となりました。

※端数調整をしているため、会計別の合計額と予算総額に差があります

■問い合わせ 財政課 ☎内線 333

平成二十一年度当初予算を財政健全化の第一歩と位置づけ、人件費や投資的経費（建設費など）、起債（借金）などの抑制に努めました。しかし、社会保障関係経費をはじめ、介護保険事業、公共下水道事業などの特別会計への繰出金や杉田玄白記念公立小浜病院組合への負担金が伸びるなど、厳しい財政状況が続いています。

公債費（借金返済の額）は、平成二十四年度まで高い水準で推移しますが、若狭西街道などの県営事業が完了予定のため、今後、投資的経費を抑制していけば、同二十五年以降、公債費はしだいに減っていくと見込んでいます。

このような中、『チェンジ小浜・次世代に向けて』をキャッチフレーズに、マニフェストに基づいた、将来を見据えたまちづくりを進めるため、必要なものについてはソフト事業を中心にきめ細かく、できる限り予算付けをしました。

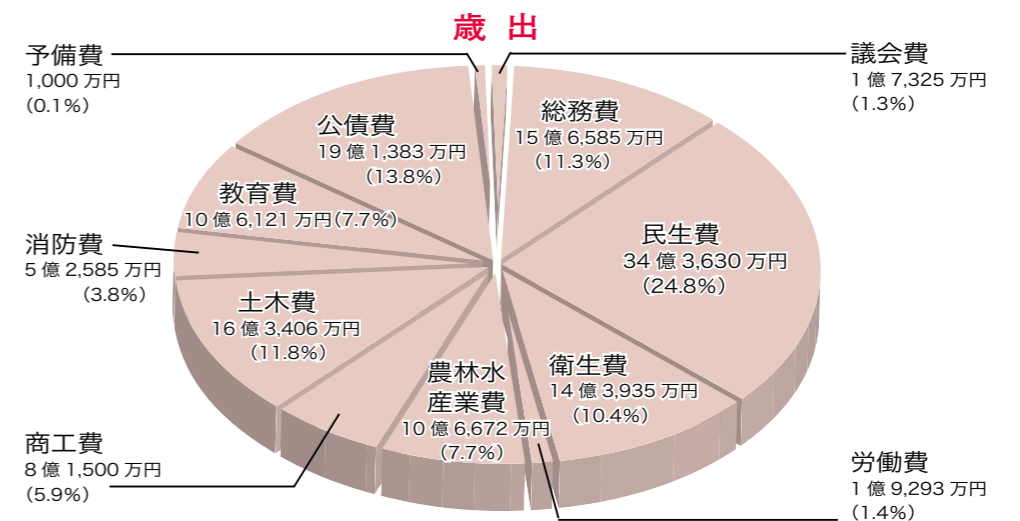
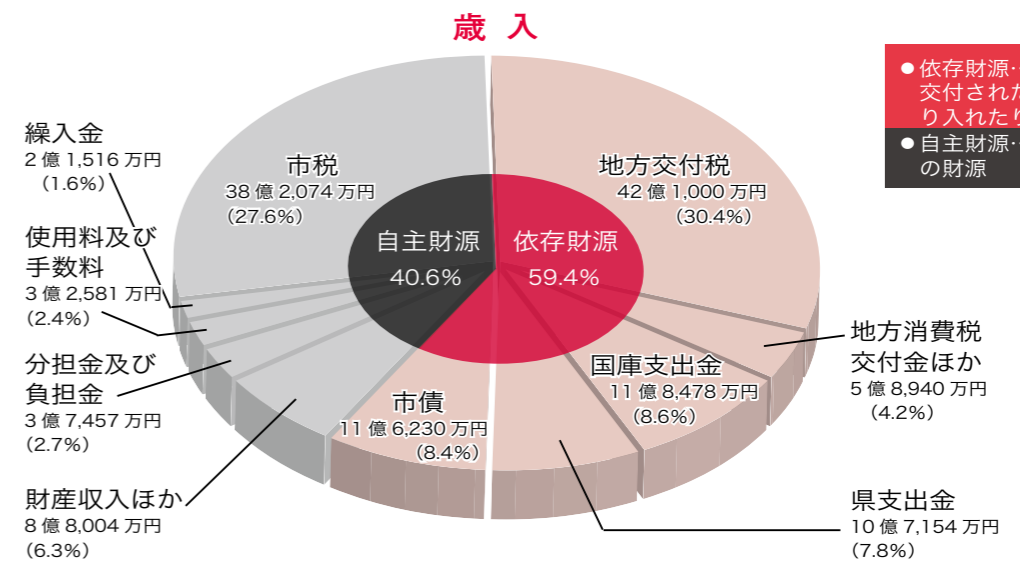
さらに、現在の厳しい経済情勢を踏まえ、経済・景気対策として、三月補正を含めた、十三カ月予算を編成するなど、限られた財源を効率的、重点的に配分した、メリハリのある予算を編成しました。

市民一人当たりの予算状況などをわかりやすく公開することにより、市の財政状況をよく理解していただきながら、今後も協働のまちづくりを進めていきます。

平成21年度 会計別当初予算

	平成21年度	平成20年度	増減率	
一般会計	138億3,433万円	134億9,803万円	2.5%	
特別会計	99億8,304万円	98億5,817万円	1.3%	
内訳	国民健康保険	29億8,902万円	31億6,695万円	▲5.6%
	老人医療	802万円	3億1,793万円	▲97.5%
	後期高齢者医療	3億5,845万円	3億8,309万円	▲6.4%
	介護保険	28億1,357万円	26億8,349万円	4.8%
	簡易水道	9,166万円	1億223万円	▲10.3%
	下水道	31億1,446万円	26億6,179万円	17%
	農業集落排水	5億1,392万円	4億5,316万円	13.4%
	漁業集落環境整備	6,659万円	6,124万円	8.7%
	駐車場	2,732万円	2,826万円	▲3.3%
	加斗財産区	3万円	3万円	0%
企業会計	9億2,129万円	9億8,468万円	▲6.4%	
内訳	国民宿舎	7,820万円	1億645万円	▲26.5%
	水道	8億4,309万円	8億7,823万円	▲4%
合計	247億3,866万円	243億4,089万円	1.6%	

一般会計 138億3,433万円



総務費 (課税徴収、防災、戸籍事務など) 51,684円	民生費 (障害者、高齢者、児童の福祉など) 106,618円	衛生費 (環境保全、ごみ処理など) 44,659円	農林水産業費 (農業、林業、水産業の振興など) 33,097円
---	---	--	--

一般会計予算を市民1人当たりになると**429,238円**で、目的別内訳の主なものは次のとおりです (人口32,230人 3月1日現在)

商工費 (商工業の振興、観光事業など) 25,287円	土木費 (道路、河川、公園の整備や維持管理など) 50,700円	教育費 (学校教育、社会教育、体育施設の維持管理など) 32,926円	公債費 (借金の返済) 59,380円
--	---	--	--------------------------------------

マニフェスト 4 本柱

財 簡素化+効率アップ 財政改革断行 改

財政の健全化に努めるため、市税や使用料などの徴収を強化、保留地の積極的な売却、企業誘致などで自主財源を確保、拡充します。



税の収納率アップ対策負担金 55 万円

4月から、県と市町が共同で「福井県地方税滞納整理機構」を立ち上げ、税の収納率アップに努めます

新今富保育園の建設助成 1 億 2,790 万円

老朽化している今富第一、第二保育園を統合、民営化して平成 22 年度開園を目指します

市庁舎に総合案内係を配置 265 万円

市庁舎 1 階の市民ホールに総合案内係を配置します。フロア案内のほか、高齢者や障害者、子ども連れの人などに声かけや介添え、車いすの手配などを行います

支出ダイエットに取り組んでいます

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ☆市長（10%）、副市長（6%）の給与と教育長（18.5%）の管理職手当をカット
▲ 182 万円 | ☆人件費を削減（対前年比 14 人減）
▲ 1 億 3,576 万円 |
| ☆市長、議長、教育長の交際費を一律 10% カット
▲ 39 万円 | ☆小浜ロッジを閉鎖
▲ 2,618 万円 |
| | ☆団体への補助金を約 10%削減
▲ 698 万円 |

観 若狭広域活性親交 観光活性化で活力 活

食のまちづくりを生かして、観光交流人口の拡大や地域資源などから商品開発へ発展させるなど、地域産業と観光との連携を推進するため、その核となる観光局の創設に取り組みます。

「観光局」設立の準備 800 万円

観光の核となる「観光局」を平成 22 年度に立ち上げるために準備委員会を設置して、調査、研究を進めます

つばき回廊商業棟解体 2 億 2,000 万円

つばき回廊商業棟の解体工事の費用

小浜市伝統的工芸品後継者育成事業 900 万円

本市の伝統的工芸品である若狭塗、若狭めのう細工、若狭和紙、若狭粘土瓦に携わる後継者を確保、育成します

小浜西インターチェンジのフルインター化 1 億円

高速交通網の整備として、小浜西インターチェンジのフルインター化に取り組みます

に沿って予算を編成

参 オープン+信頼アップ 市民の参加協働型市政 協

市民本位の市政を推進するため、市政全般について市民の皆さんから意見、提案をいただき、積極的に施策に反映させます。



市政ブレーン 88 万円

民間の発想やノウハウを主要な施策に反映させるため、民間の有識者による「市政ブレーン」を立ち上げます

いいとこ小浜づくり活動支援事業 111 万円

市民の皆さんの自主的な活動を支援することで、市民参加の意識の高揚とわくわくできるまちづくりを推進します

悠 ゆうゆう 悠々いきいきシティ小浜 安

家庭や学校、病院、行政などが連携してネットワークを作り、相談窓口などを充実させます。お年寄りや障害者が安心して暮らせる、未来を担う子どもたちが夢を持っていきいきと過ごせるまちづくりを行います。

発達障害者支援のネットワークづくり 100 万円

発達障害者がいきいきと暮らせるように、きめ細かな支援ができるネットワーク（家庭、福祉、教育、病院、学校など）をつくります

児童家庭相談員の配置 195 万円

虐待を受けている児童や非行児童などの早期発見、早期対応のため、市専属の児童家庭相談員を配置します

公営住宅の建設 3 億 4,832 万円

平成 21 年度から同 22 年度にかけて、旧福寿園跡地に高齢者などにも対応できるバリアフリーの公営住宅 48 戸を建設します（平成 21 年度は 24 戸）

小学校体育館の耐震補強工事 8,581 万円

小中学校施設耐震化推進計画に基づき、国富、松永、中名田、加斗の 4 地区の小学校体育館の耐震補強工事を行います

市民体育館の一部リニューアル 1,600 万円

市民の皆さんの健康増進のため、市民体育館のトレーニングセンターをリニューアルして、有酸素運動を中心とした器具に取り替えます

小浜西組の修景整備 2,466 万円

昨年 6 月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された、小浜西組の家屋などの修景整備に要する経費の一部を助成します

「小浜の改新」に向けて、全力で取り組みます

三月三日に開会した三月定例会市議会の冒頭で、松崎市長が所信を表明しました。その一部を掲載します。

昨年八月の市長就任から七カ月が経過しましたが、この間、世界経済は百年に一度といわれる不況に陥り、その影響から地方経済を取り巻く環境は、ますます厳しさを増しています。

このように、たいへん厳しい状況ではありますが、マニフェストに掲げた地域力集結プロジェクト小浜の改新・ワクワクできるまち小浜の実現に向け、誠心誠意全力で取り組んでいるところです。

中でも、市民の参加協働型市政の推進については、市内十二地区の公民館で市長と夢トークを開催させていただきました。市民の皆さんのまちづくりや地域に対する熱い思い、貴重なお考えな

どを直接お聞きすることができました。

また、ご意見やご要望などを幅広くお聞きするため、ワクワク振興アイデアアポイントを市庁舎一階と市民サービスコーナーに設置したほか、市公式ホームページにワクワク振興アイデアドットコムを開設したところです。

今後も積極的な情報公開を心がけ、市民の皆さんと十分に意見交換をさせていただきながら、市民本位の市政推進と行政サービスの向上に努めていきます。



行財政改革の断行

まず、「行財政改革の断行」については、マニフェストの第一に掲げさせていただいた柱であります。

本市のまちづくりの将来を展望するうえで、安定した行財政基盤の確立が不可欠であることから、当面、財政再建のために全力を傾注していきます。

財源の確保については、市税の収納率向上が重要であるため、昨年十二月から職員による特別徴収に取り組んでいます。

また、新年度からは、県と市町が共同して地方税の収納率向上を図るため福井県地方税滞納整理機構が設

置されますが、職員一人を派遣するなど積極的に参画し、税の確保に努めます。

歳出については、扶助費などの社会保障関係経費や公債費の増大に加え、介護保険特別会計、下水道特別会計などへの繰出金が伸びる傾向にあります。

しかしながら、若狭西街道などの大型事業につきましてはほぼ完了のめどがつき、ここしばらく大型建設事業を抑制し市債の発行を抑えていけば、市債残高は徐々に減少し、平成二十五年以降、公債費は下がっていくものと見込んでいます。

既存事業については、施策評価に基づく各事業の進捗よく状況を把握したうえで、事務事業評価などにより厳しく見直しを行ったところと見込めます。

職員の定数見直しについては、本年度で当初目標を上回る百五十%の達成率となりましたが、さらにコンパクトな組織とするため、平成二十三年度には三百十人を目標としています。

今後も、指定管理者制度の導入や民間委託を積極的に推進し、行政のスリム化と効率化を図り、経費の削減に努めていきます。

次に、小浜ロッジの閉鎖についてです。昭和三十九年七月から多くの皆さんに利用していただけてきましたが、築後四十年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいることに加え、近年の観光ニーズの多様化などから宿泊者数が減少し、たいへん厳しい経営状況となっています。

施設の耐震補強、改修に多額の費用がかかること見込

まれることなどから、十二月末で閉鎖したいと考えています。

市立保育園の統廃合民営化については、平成十九年度に策定した小浜市立保育園統廃合及び民営化計画に基づき順次進めているところです。今富第一・第二保育園については、本年度中に土地造成工事と建築実施設計を完了し、新年度には、園舎の建設工事に取りかかる予定です。

あわせて、民営化にあたり、新保育園の保育内容について、保護者の理解が得られるよう努めるとともに、今後も良好な保育環境が維持されるよう引継保育を実施し、平成二十二年四月の開園に向けて準備を進めていきます。

小浜第一・第二保育園についても検討を進めているほか、園児数の減少が著しい田島保育園については、国道162号の開通後に統廃合を計画しています。今後、地区関係者への説

明を行うとともに、現保育園跡地の活用方法などについて具体的な協議を進めていきます。

市民の参加協働型市政

次に、第二の柱「市民の参加協働型市政」の推進による信頼される市政の構築について申し上げます。

市民と行政の適正な役割分担の下、まちづくりへの積極的な市民参加の促進を図り、地域の特性を生かした魅力あるまちづくりを進めていくことが重要であるため、いいとこ小浜づくり活動支援事業を立ち上げ、特色あるまちづくりや人づくりに取り組む活動を支援していきます。

また、主要な政策の立案にあたって民間の発想やノウハウを取り入れるため、それぞれの分野の有識者による市政ブレインを設置し、専門的な見地から指導・助言をいただき、常に民間の経営感覚をもって市政運営にあたります。

広域連携による活性化

第三の柱「若狭広域連携による地域経済の活性化」について申し上げます。

本市の発展には、嶺南各自治体との連携はもとより、滋賀・京阪神地域との結びつきを強めることが極めて重要であり、その架け橋となる琵琶湖若狭快速鉄道の早期実現に向けて、嶺南地域と滋賀県側の各自自治体が一体となって取り組む必要があります。

滋賀県高島市、若狭町、本市の三市町主催による琵琶湖と若狭湾を結ぶシンポジウムの開催、三市町それぞれに、新線実現を目指す住民の会が立ち上がるなど、湖西・嶺南両地域の連

携協力が活発化し、気運も高まっています。今後も地域間のつながりを深め、早期実現を目指して国や県など関係機関に強く働きかけていきます。

JR小浜線については、沿線地域住民の活発な利用促進運動、ちりとてちん効果などにより、利用者数は一昨年以来増加傾向にあります。

今後も、嶺南地域が一体となって利用促進活動に取り組むとともに、ダイヤなど利便性の向上について引き続きJR西日本へ要望するなど、小浜線の活性化に努めていきたいと考えています。

舞鶴若狭自動車道については、小浜西インターチェンジ（IC）から小浜IC間は平成二十三年度、小浜ICから敦賀ジャンクション間は同二十六年度の完成を目標に順調に整備が進められています。本市の工事着手率は八十七%を超え、



工事が進む複合型活性化施設（3月10日）

和久里地係に建設中の複合型活性化施設（道の駅）事業については、直売所にかかる造成工事や農産物加工調理体験施設の整備を、年度内の完成を目指して進めているところです。

小浜ICが供用開始となる平成二十三年度までには、県が事業主体となって設置する道の駅、市が設置

する農産物加工調理体験施設、特産物などの直売所の整備を完了し、観光客を市街地に呼び込む情報発信基地として機能させたいと考えています。

全国のトップランナーとして、たいへん高い評価を受けている食育や地産地消については、小浜市食育推進計画などに基つき、幼児の料理教室キッズ・キッチンをはじめ、小中学校での地場産学校給食、成人・高齢者向けの栄養健康指導など、あらゆる世代を対象とした生涯食育のいっそうの充実と地域への浸透を図っていきます。

それとともに、特に今後は、喫緊の課題である地域経済活性化の観点から、食と産業・観光との結びつきを強め、各般の施策を推進していきたくと考えています。

次に、市の基幹産業である農林水産業の基盤強化について申し上げます。

取り組むべき具体的な事業内容などについて協議・検討してまいります。

つばき回廊商業棟については、昨年十二月末に市が取得しました。同棟を放置することは、中心市街地活性化の大きなマイナス要因となるものであり、多くの関係各位のご理解とご協力の下、市の最重要懸案事項の一つの方向性を見い出せたことにつつまして、あらためて感謝申し上げます。

ただ、物件の取得は、市街地活性化に向けた取り組みのスタートにすぎないものと考えており、今後は、建物の解体を進めるとともに、跡地利用の検討などを行い、中心市街地のにぎわい創出につなげていきたいと考えています。

業務棟一〜二階の市民サービスクーナーなどの施設につつましては、移転先などの見通しがついた段階で移転、改修にかかる経費を計上させていただきたいと考えています。

まず、農業の振興については、地域農業の担い手の確保に向け、着実に増加している認定農業者の育成、農業所得の向上に全力をあげて取り組んでいきます。

あわせて、小規模農家や高齢農業者など、多様な担い手が活躍できるように、新年度から地域農業サポート事業を開始し、高齢化や農地が小区画で分散しているなどの理由で耕作が困難な水田の請負作業を支援し、地域農業全体の維持・発展を図ります。

林業の振興については、森林が有する貴重な水源の涵養機能をはじめ、災害や地球温暖化の防止、生物多様性の保全などの多面的機能が十分発揮されるよう、森林の適切な管理とその育成を図るとともに、林業生産性の向上のため、高性能林業機械の導入や林道、作業道などの整備を進めていきます。

嶺南地域にある二州、名田庄、若狭の三つの森林組

悠々いきいきシティ小浜

第四の柱「悠々いきいきシティ小浜」について申し上げます。

地区全体の防災・道路などの生活環境整備につつましては、皆さんの意向を踏まえ、具体的な整備計画の策定に取り組んでいきたくと考えているほか、少子化対策については、次世代育成支援行動計画に基づき、親と子が気軽に集い交流するつどいの広場事業や一時的な保育を行うすみずみ子育てサポート事業などを継続実施します。

また、放課後児童対策と



内外海小学校に児童クラブが開設されます

合ですが、本年十二月に合併し、新たにいなん森林組合としてスタートする運びとなりました。広域合併により経営基盤の強化が図られ、地域林業の活性化にいつそう寄与されることを期待しています。

水産業の振興については、県立大学と連携してサワラの幼魚など低利用魚類を活用した醤油干しなどの新製品開発、地サバの畜養技術の確立による水産資源の確保のほか、若狭ふぐの宿認証制度の普及・PRに取り組み、若狭ものブランドイメージの向上に努めていきます。

市の伝統産業である若狭塗、若狭めもの細工、若狭和紙、若狭粘土瓦については、高いブランド力を有し、市を代表する地場産業である一方、従事者の高齢化、後継者不足といった課題を抱えており、産業としての維持が重要な課題となっております。

してニーズの高い児童クラブについては、現在六地区で実施していますが、新たに内外海児童クラブを開設します。

次に、発達障害者への支援事業についてです。

発達障害者が充実した日常生活をおくるには、福祉や教育、医療などの機関が相互に連携し、それぞれが有する知識や技術を十分に生かして、きめ細かな支援ができるシステムを構築する必要があります。

このため、発達障害者の状況に関する基礎調査を実施するとともに、医療、教育などの専門機関や保護者などで構成する発達障害者支援検討委員会を立ち上げ、発達障害者支援計画の策定に取り組みます。

さらに、昨年八月から実施している五歳児健康相談を充実させ、発達障害児の早期発見、早期対応に努めるとともに、保育会や中学校などの関係機関の職員・教諭、発達障害者の保

そこで、地域の財産とも言べき、これらの伝統産業を担う伝統工芸を維持し、将来に向かって発展させていくため、新年度から小浜市伝統的工芸品後継者育成事業を立ち上げることにしました。

これは、伝統工芸にかかるとる産地組合や事業所などが、後継者育成に取り組みするために必要となる経費を支援するもので、伝統工芸の製造技術を後世につないでいくことができればと考えています。

観光局の創設について申し上げます。



観光局準備委員会（2月28日）

護者など、広く市民を対象とした研修会を開催し、障害への理解を深めていきます。

将来的には、乳幼児期、学童期、青壮年期それぞれのライフステージに合わせた体系的な支援システムを築いていきたくと考えています。

低所得者層に配慮した国民健康保険税の軽減については、新年度から世帯所得が一定基準以下の場合、保険税を所得や加入人数に応じて、それぞれ七割、五割、二割軽減する措置を実施します。

次に、妊婦の検診無料化の拡大についてです。

近年、出産年齢の高齢化などにより、母体や胎児の健康確保を図るうえで、妊婦検診の重要性、必要性がいつそう高まっています。

このため、第一子からのすべての妊婦を対象に、妊婦検診十四回すべてを無料化することとしました。こ

本市には、地域に根付く自然や食、歴史、文化などすそ野の広い観光資源が数多くあります。これらを生かすため、観光関係者だけでなく地域住民が参加し、地域一体となって観光資源を磨き上げ、高水準で均一なホスピタリティを提供することができれば、本市の観光競争力はいつそう高まります。

そのためにはまず、地域一体となった強固な基盤を築くことが必要であり、その仕組みとして観光局の創設が必要であると考えています。

先月には、観光協会をはじめ小浜商工会議所、料理・旅館組合、農林漁業団体などの各種団体の代表者をメンバーとする準備委員会を設立し、観光局の創設に向けた検討を始めることにも、庁内に連絡会を設け、全庁体制で取り組む体制を整えたところです。

今後、準備委員会の中に常任委員会や体験観光などの専門部会を設け、組織や

れにより、妊娠の健康管理の充実が図られ、健全な出産などの効果が期待できるものと考えています。

小中学校施設の耐震化については、昨年八月に策定した小中学校施設耐震化推進計画に基づき、早急にかつ計画的に学校施設の耐震化事業を実施してまいります。

まずは松永・国富・中名田・加斗の各小学校の体育館について耐震補強工事を実施します。五年後の平成二十六年には学校の耐震化率を八十%にまで高め、同二十九年にはすべての学校の耐震化を完了する予定としています。

*

各般の施策を全力で推進めることで、「魅力と活気にあふれ、安心して暮らせるまち小浜」を築いていきたいと考えています。皆さんのご協力をお願いします。